

京都の新たな情報発信のゲートウェイ「京都館 PLUS X」の開設について

京都市では、首都圏における京都情報の発信拠点として東京八重洲に設置していた「京都館」を平成30年3月に閉館しました。その後も、切れ目なく京都情報の発信を継続するため、WEBサイトやYouTubeチャンネルを開設し、京都館プロジェクトの事業や東京で京都を感じられるイベント情報等をSNSと連動させながら発信してきました。

令和3年度からは、「バーチャル京都館モデル実証事業」として仮想空間を活用した情報発信に取り組むこととし、この度、インターネット上の仮想空間にバーチャル京都館（名称：京都館 PLUS X）を開設しましたので、御報告いたします。

今後は、「京都館 PLUS X」を京都の新たな情報発信のゲートウェイとして位置づけ、京都をより身近に感じていただけるコンテンツ等を提供してまいります。

記

1 概要

(1) 名称

京都館 PLUS X（プラスエックス）

URL：<https://www.kyotokan.jp/vr-kyotokan/>



(2) オープン日時

令和4年3月17日（木）13時00分

(3) コンセプト

「京都を訪れる」、「京都に住む」、「京都に納める」、「京都のモノを買う」の4つの行動を促すことをコンセプトに、利用者にとって、多様な視点で京都の魅力をいつでも楽しむことができ、京都をより身近に感じていただける空間を創出する。

これにより、伝統産業品をはじめ、京都市内産品を展示・販売することでコロナ禍において売上不振に苦しむ事業者への支援に繋げるとともに、観光誘客、移住促進、企業誘致、ふるさと納税獲得等に繋げ、京都への投資の喚起を図り、都市の成長戦略を推進する。

(4) 特徴

ア 若者への訴求～渋谷区等との連携～

「京都館 PLUS X」は、アートやカルチャーの発信拠点として、多くの若者が訪れる渋谷区立宮下公園を仮想空間上に再現した「渋谷区立宮下公園 Powered by PARALLEL SITE」内に設置しており、同バーチャル空間を管理・運営する（一社）

渋谷未来デザイン※，大日本印刷株式会社等と，イベント企画や情報発信等を連携して行うなど，リアル×バーチャル双方の宮下公園を訪れる若者の「京都館 PLUS X」への誘導を促す。

※ 渋谷においてオープンイノベーションにより社会的課題の解決策と可能性をデザインするための多様な主体からなる組織。このパブリックパートナー制度に参画し，プロジェクトやイベントなどの事業で連携・協力を推進していく。

イ 参加者同士の自由な交流

自身の分身となるキャラクター（アバター）を選び，同時参加しているユーザー同士で，音声による会話，写真撮影，SNSでの共有などの交流ができる。

ウ 京都市のイベントとの連動

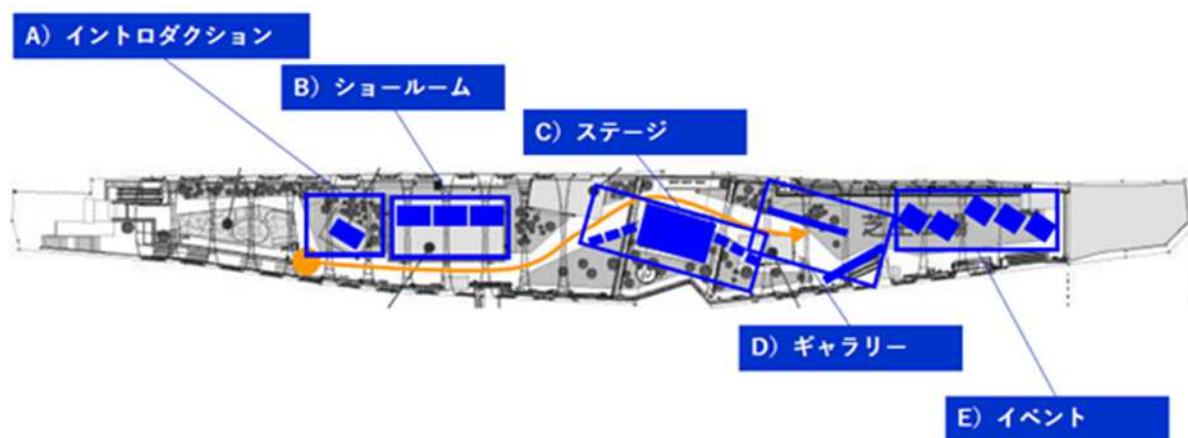
京都市で開催される様々なイベントと連動して，仮想空間ならではの展示や体験を提供する。

現在は，京都伝統産業ミュージアムで開催している（3月31日まで）工芸イベント「CRAFT POINT KYOTO（以下「CPK」という。）」と連動した動画配信や展示・販売，令和3年度京都国際マンガ・アニメ大賞の受賞作品の展示のほか，様々な京都の情報を掲載している。

エ 特別な装置やアプリケーションは不要

パソコン，スマートフォンなどのウェブブラウザ（safari，google chrome など）で，世界中どこからでもアクセスして楽しむことができる。

(5) 内容



	名称	内容	現在掲載中のコンテンツ
A	イントロダクション	「京都館 PLUS X」の案内、イベント情報を掲載。	ウェルカムボード、館内図、イベント情報
B	ショールーム	3つのルームを設置し、京都市からのお知らせ、観光情報を掲載。展示会やイベント会場として事業等への貸出も実施予定。	①移住、企業誘致、ふるさと納税に関する情報 ②観光情報、二条城映像 ③京都国際マンガ・アニメ大賞受賞作品
C	ステージ	メインステージ: イベントに合わせた様々な動画配信、ライブ配信の実施。	CPKの様子や職人のインタビュー、春の京都の町並みなどを配信。
D	ギャラリー	京都市内産製品の販売。画像を掲載しオンラインショップへ誘導。	伝統産業ミュージアムで過去に開催した企画展を写真で振り返るアーカイブ展を開催。
E	イベント	商品の画像に加え、動画等により詳細な商品情報等を提供し、オンラインショップへ誘導。	CPK 出展企業による伝統産業製品の紹介、販売。

2 今後の展開

当事業は、令和5年度までをモデル実証期間としており、今後、順次機能を拡充していく。

令和4年度以降は、独自の物販機能実装による伝統産業品以外の商品やアバターアイテムの販売、イベントに合わせた広告・協賛の獲得、空間内のショールームやステージなどスペースの貸出事業を展開するなど、仮想空間における収益モデル構築に向けた検証等を行うとともに、伝統産業をはじめとする市内事業者の方々に、オンライン上でのビジネスを体感していただく場として、「京都館 PLUS X」の活用を促していく。

(参考)「京都館 PLUS X」内ショールーム

